

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	38	学 校 名	静岡県立静岡東高等学校	校 長 名	宮田 治幸
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	授業改善と確かな学力の向上	・教員の授業参観 年3回以上 100% ・「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けた」と答える生徒の割合 全科目で80%以上 ・教員の教科指導セミナー参加者人数 5人以上 ・課題解決のための先進校訪問 2人以上	・3学期までの全教員の参観回数 年3回以上の割合は96%で、ほぼ目標を達成できた。 ・授業アンケートを実施した52科目中、49科目で80%以上を達成することができた。 ・予備校が主催するオンラインセミナーを、国、数、英、理、地歴の各教科から1人ずつ合計5人受講した。	A	・今後も「授業参観週間」を定期的に設けて、多くの教員が自由に参観できる環境を提供していきたい。 ・94%の科目で目標を達成できているので、授業改善を進めて全科目での達成を目指したい。 ・オンラインセミナーのため期間を設けて複数の教員が視聴でき、授業力の向上につながった。	研修
		・1・2年家庭学習時間 平日1日平均最低90分、目標3時間以上 ・1・2年11月進研模試 偏差値平均 55以上 ・大学入学共通テスト平均点 全国平均+5%以上 ・学習支援プラットフォーム(Classi)の学習指導への活用	・定期テスト前の家庭学習時間調査に変更した。テスト前については達成できた。(1,2年) ・模試の偏差値は1年は57.4、2年は54.5であった。 ・共通テスト平均点+5%は、文系型では達しできた。しかし理系型は約30点下回った。 ・数学の学習課題で実績をあげた(1年)	B	・家庭学習習慣をつけるために、定期テスト前に調査を実施した。恒常的な学習時間の確保に向けた対策が今後の課題である。 ・全体のレベルアップ(底上げ)が必要である。恒常的な学習習慣の意識付けが課題。 ・Classiの利用について検討する。	進路 学年
		・新教育課程・共通テストに対応する体制の確立 ・3年間を見通した進路指導計画の検証と改善 ・Classiによる活動履歴蓄積の推進	・新教育課程の年次進行に伴い、各教科と連携しながらカリキュラム変更を適切に実施することができた。 ・2,3年の調査書作成に対応した活動履歴の蓄積をClassiを用いて行った。	A	・次年度以降も各教科との連携を高め、カリキュラムの適正化を推進していく。 ・1年の調査書については書式が変更される予定なので、変更を見極めながら、今後対応を進める。	教務 進路 学年
		・「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けることができた」生徒 80%以上 ・「社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒」 80%以上	・「授業を通して新たな知識や考え方を身に付けることができた」生徒 95.7% ・「社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒」 88.1%	A	・学校や家庭、地域の身近にある課題を意識し、その解決に向けて取り組もうとする生徒たちが、実際の行動につながられるようにしていきたい。	探究 学年 各教科
		・授業への取組状況・姿勢について、「自ら進んで取り組んでいる生徒」 70%以上	・「自ら進んで取り組んでいる生徒」 34.7%	B	・課題の提出状況は決して悪くはないが、自発的な学習とは言えず、各学年・教科においてどのような取組み・声掛けが有効か、検討していきたい。	教務 学年

様式第3号

		・一人一台PCの導入と活用方法の検討と決定 ・情報機器を活用した学習機会の拡大 ・授業や探究学習でオンライン学習や交流活動を進める。	・令和4年度入学生の端末整備が完了した。これ以降の導入方針も決定した。活用方法については、研究と実践を積み重ねている。	A	・引き続き、効果的な活用方法を研究し、実践を重ねる。	教務 情報 探究 各教科
イ	志の育成と進路目標への挑戦	・大学模擬授業 生徒満足度 各90%以上 ・大学訪問 生徒各自の目標達成率 100% (オンライン説明会参加も含む) ・大学入学共通テスト5教科型受験率 80%以上 ・ハイレベル模試受験者数 学年各30人以上 ・県内国公立大学合格者数 60人以上 ・国公立大学現役合格者数 卒業生の50%以上 ・難関国公立大学(※1)合格者数 10人以上 ・難関私立大学(※2)合格者数 90人以上	・2学年合同での実施。生徒の満足度はほぼ100%。 ・大学訪問達成率90% ・3年在籍262人中5教科型受験は208人(79%)。 ・ハイレベル模試受験者46人(1年)、12人(2年)	B	・2学年合同実施のため、担当者の負担は多いが、改善を加えながら次年度も実施する。 ・大学訪問についてLHRで全員発表したが、大学のHPを調べただけの生徒もいた。 ※大学合格者数等は3月に報告	進路 学年
		・「専門教養講座(後期)」の単位取得者 5人以上 ・生徒個人面談回数 年間5回以上	・コロナ禍3年ぶりの開講であったが、6人の受講者が勉学に励んだ。 ・面接週間、夏季休暇三者面談、進路面談など5回以上の面談を実施できた。	A	・来年度以降も、生徒・保護者への丁寧な周知で臨みたい。 ・年間5回以上の生徒面談の時間を確保していきたい。	教務
		・静岡大学実験講座 参加者数20人以上 満足度90%以上	・参加者24名 ・満足度100% 静岡大学の全面的な御協力を得ることができた。	A	・25名申し込みのうち、当日欠席者1名、遅刻者2名。連絡方法や事前指導方法に改善が必要。	理系高 大連携 推進委員会
		・修学旅行生徒満足度90%以上 ・SDGs等に関する各種外部コンテスト・プレゼン大会に参加する生徒 30人以上	・修学旅行に対して90%以上の生徒が「満足した」「だいたい満足した」と回答した。 ・静岡魅力探求プログラム「アオハルし放題」4人 ・静岡県SDGsスクールアワード2022 4人 ・SDGs Quest みらい甲子園静岡県大会 17人 ・マイプロジェクトアワード2022 静岡県サミット8人 ・静岡県高校生サミット3人 ・ジェンダー関連卒論・探究学習発表会 8人 ・WWL コンソーシアム構想支援事業 静岡県高校生グローバル課題研究ポスターセッション大会 8人	A	・修学旅行でSDGsフィールドワーク研修を行う必要があるのか、検討すべきである。 ・2年生を中心にま〇人(延べ〇人)が参加。発表の質を高めていく必要がある。	2学年 探究
		・SDGs terakoya 参加者の満足度90%以上 ・英語外部検定(GTEC等「学びの基礎診断」) C E F R B1レベル 60人以上 A2レベル 500人以上	・参加者12名 満足度100% ・CEFR B1:62人 A2:756人(GTEC)	A	・内容、募集方法を工夫し、今後も継続できる方法を考える必要がある。 ・技能ごとのCEFRレベルの差がある。総合的に伸ばしていく指導が必要である。	進路 探究 英語科

様式第3号

ウ	自主自律の精神と豊かな人間性の育成	・遅刻生徒数 1日平均 全校で5人以下	・1日平均7.0人(12月末現在)	B	・コロナ禍、暫くは強い遅刻指導は難しいが、個別に事情を聞きながら声掛けをしていきたい。	教務 学年
		・東陵祭生徒満足度 80%以上 ・「自ら挨拶をしている」と答える生徒 90%以上 ・各部活動の目標達成率 80%以上 ・最終下校時間 19:30の遵守	・東陵祭では感染対策を万全にし、事故なく終えることができた。 ・「自ら挨拶をしている」と答える生徒 87.% ・挨拶はほとんどの生徒が行っており良好。 ・部活動では、主に文化部において上位大会へ進出し活躍がみられる。下校時間も守られている。	A	・HRPでは一部リモートでの実施、一般開放も3年保護者限定であった。今後も感染レベルにより対応を変えていかなければいけないのが現状である。 ・生徒会、校風委員会の啓蒙活動の効果もあり、継続して行っていきたい。 ・校舎改築に伴い、練習場所の確保やローテなど、検討の余地あり。	生徒
		・初期指導を効果的に実施する中で、「高校生活指導プログラム」の見直しを図る。 ・情報モラル講座の実施、関連の生徒指導 0件	・外部団体による情報モラル講座を実施。3学期に不適切動画や画像を送信し、被害生徒も出てしまう事件が発生。	B	・情報モラル講座およびネット依存度テストを実施し、結果をもとに面談等でも予防活動に努めたい。	学年 生徒 いじめ防止対策委員会
		・文化教室 生徒満足度 80%以上 ・ビブリオバトルの実施 ・図書館の貸出本冊数 5,000冊以上	・句会ライブは全校生徒で楽しく参加することができた。 ・ビブリオバトルは発表態度、聞く態度ともに良いものであった。 ・図書館の貸出冊数は3年連続かつ年内に1万冊を越えた。今年度1冊でも本を借りたことのある生徒の割合は50%を越えた。	A	・来年度はオペラ鑑賞を実施する。 ・読書活動の活性化、プレゼン能力の育成につながるこの行事を継続して行う。 ・他校と比較して圧倒的に多い貸出数を今後も継続できる働きかけを行う。	図書
エ	心身の健康と命を守る教育の推進	・重大な生徒交通事故件数 0件	・重大事故は0件 ・軽度～中程度事故が20件発生(例年より増加)、指導カードをもらう生徒も市内で上位となってしまった。	B	・引き続き交通教室年2回実施や、委員会を通じた予防啓蒙活動を充実させ、自転車ルール・マナーを徹底させたい。 ・年間3回の交通街頭指導の実施。	生徒
		・保健便りの発行回数 10回以上と発行方法の工夫 ・養護教諭による集団を対象とした保健教育の実施	・保健便りを10回発行することができた。 ・各講座、予定どおり実施することができた。	B	・保健委員が発行月に合う健康課題を見つけ、作成・発行することができた。 ・今後も継続して実施していきたい。	保健
		・グループエンカウンター(1年生)の実施 ・セラ・プラスの実施と活用 全学年 ・1分間カウンセリング(1年生)の見直しと代替措置の検討 ・丁寧な生徒観察と早めの声掛けを実施し、関係職員やSCとの情報共有等、困難を抱えた生徒に対する組織的な支援の実施	・年度初めのクラス経営に資することが出来た。 ・5月中旬に全学年を対象に実施し生徒支援に活用できた。 ・「相談室連絡会議」の機能を活用することにより代替できた。 ・SCの面談結果の情報共有を通して、組織的な生徒支援が実施できた。	A	・全クラスで実施できたが、より本校にとって適切な実施形態を考えて精選していきたい。 ・生徒理解が一定程度深まり生徒支援に資することができた。 ・「相談室連絡会議」により、個々の「生徒の課題や問題点を把握」することとした。 ・スクールカウンセラーの活用と密接な連携により、課題を有する生徒を適切に支援することができた。緊急の場合に備えた柔軟なカウンセラー活用について検討する。	教育相談 各学年

様式第3号

		・地域防災訓練への生徒参加率 80%以上 ・一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	・地域防災訓練への生徒参加率は30%程度 ・一斉メール配信を活用した安否確認訓練を行うことができた。	B	・地域防災訓練の実施日が修学旅行と重なっていた。違った方法を検討していきたい。 ・一斉メールは入学直後に行うことも検討していきたい。	総務
オ	積極的な広報活動	・土曜公開授業の参加者数 計 1,600 人以上 ・土曜公開授業外部評価満足度 90%以上	・土曜公開授業参加者数 1885 人 ・土曜公開授業アンケート満足度 91.5%	A	・申込受付数を慎重に見極め、できるだけ多くの見学者を受け入れるよう努力した。 ・職員にとって、駐輪場、受付、前日のオンライン準備の係は特に負担は大きい。 ・校長が直接語りかける説明会の効果は大であった。	管理職
		・土曜公開授業での校内美化点検の実施	・土曜公開前日には、保健課職員も美化の点検を必ず行い、不備があれば補った。	A	・前日の清掃、当日朝の美化とも、生徒が自覚的に校内の整備を実施できた。来訪者アンケートにも、丁寧に清掃していることを認める感想が多くあった。	保健
		・HPのタイムリーな情報発信と週2回以上の更新 ・HPにおける各部活動の活動報告 学期1回以上	・HPはほぼ毎日更新し、生徒の活動の様子を発信した。 ・部活動の活動報告は、令和5年1月現在、68件。	A	・引き続き、生徒の日常を発信し、地域、保護者、中学生にアピールする。よりタイムリーな情報発信ができるよう、SNSを活用できるように環境整備を行う。 ・積極的に発信している部活動は限定されているので、各部活動にHPの利用を呼び掛ける。	情報
		・特色ある行事や生徒の取組を記者提供し、前年度を上回るメディアへの登場回数を達成する	・56件の新聞掲載があった。(令和3年度は64件、令和2年度は56件。)	B	・熱中症対策講座はテレビの取材が2件あった。タイムリーに報道提供していく。	管理職
		・60周年記念事業への参加者の満足度90%以上	・満足度93.3%	A	・同窓会、後援会、PTAと連携しながら、よい周年行事が実施できた。	60周年実行委員会
カ	業務改善と働きやすい職場づくり	・事務室窓口へのクレーム件数 0件 ・月1回の安全点検の実施 ・ごみ処理費前年比減	・クレーム件数0件 ・月1回の点検実施 ・後期に入り大幅なゴミ量の増となった	A	・室員の日常的な臨機応変な対応により、クレーム件数0件を継続できた。 ・ゴミ削減には、職場全体としてICT活用に取り組む必要がある。	事務(保健)
		・「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上 ・配布されたGoogleアカウント内のチャット機能により、勤務時間外も含めた非常時に、管理職、運営委員が迅速な情報共有と意見交換を行えるようにする。	・「信頼できる先生がいる」と答える生徒 84.6%	A	運営委員会チャットの活用により、迅速な情報共有ができた。	管理職 運営委
		・校務分掌や部活動の整理、統廃合による校務整理 ・各種調査、教材研究等積極的にICT機器を活用し、校務の効率化を図る。	・次年度に向けて部活動統合の道筋がついた。 ・多くのアンケート調査がデジタル化された。また、教員の校務の効率化の1歩として、デジタル採点システムを試験的に運用した。(情報)	A	・生徒・職員の声を元に、部活動の整理、統廃合の端緒についた。継続して検討し、よりよい形にしていく。 ・各分掌との連携し、ICTによる校務の効率化を測っていききたい。(情報)	管理職 情報

様式第3号

キ	新校舎建築に関わる業務の遂行	・提示された基本設計(校舎配置、諸室配置、仮設校舎、バックヤードの設定等を含む)について、職員に丁寧に説明し、それに対する意見や要望を集約する。 ・設計に関する学校の意見を教育施設課や営繕工事課等県担当課に的確に伝え、適切に意見交換や情報交換に努める。	・校舎建替えについて、職員・生徒への説明、保護者説明会の開催、学校HPにての発信など、丁寧な情報公開ができた。 ・学校側からも県担当課に積極的アプローチを行い情報収集を行った結果、スムーズな設計業務のスタートを切ることができた。	A	・今後も、職員・生徒・保護者・地域への情報公開を進めるとともに、県や設計事務所と連絡を密にし、よりよい校舎の完成に尽力したい。	管理職 事務室
ク	スクール・ポリシーの策定と周知	・スクール・ポリシー策定委員会(仮称)を設置し、現行グランドデザインと突合しながら、学校の在り方や将来像について定期的な協議を行い、スクール・ポリシーを策定する。 ・職員に上記の検討経過や内容を提示し、幅広く意見を聴取する。 ・生徒、保護者、中学校、地域等に、策定したスクール・ポリシーや本校の目指す将来像を周知し、学校の教育活動の浸透を図る。	・「未来構想委員会」を8回開催できた。	A	・議論が繰り返され、学校のあり方や将来像についてスクールポリシー策定の土台が完成した。来年度は、策定したポリシーを校内外への周知の年としたい。	管理職 スクール・ポリシー策定委員会(仮称)

※1 北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京工業、一橋、神戸、医学部医学科

※2 早稲田、慶応、上智、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館